

ゆめちからのうた 研究管理監（芽室担当） 荒 木 陽 一

九州で生まれ育った身としては、沈丁花の香りに春の訪れを感じていたような気がします。北海道の方々にとっての春は、さしずめ雪のキャンパスに描かれた融雪剤の縞模様を見たときでしょうか。あるいは、雪の下から顔を出した緑の小麦を見つけたときでしょうか。

昨年4月、初めて北海道に着任したときは辺り一面モノトーンの世界で、所々顔を出している秋播き小麦の緑色が唯一の彩りでした。中でも一際色鮮やかなのが「ゆめちから」だったのです。

すでにご存じの方も多いと思いますが、「ゆめちから」とは、北海道農業研究センターが育成した北海道初の超強力（ちょうきょうりき）小麦品種で、平成20年度に北海道の優良品種に認定され、平成21年度に農林水産省の農林認定品種に決定されました。

この「ゆめちからは」、生産者にとってはコムギ萎縮病に対して強度の抵抗性を有し、実需者にとっては中力小麦粉とブレンドすることにより優れた製パン適性を示し、消費者にとっては弾力が強くもちりした食感のおいしいパンが食べられるという、大きな三つのメリットを有します。

このため「食料・農業・農村基本計画」における食料自給率50%実現のための戦略的作物として位置づけられています。

そこで、各種展示会やフェアにおいて、「ゆめちから」の普及を側面から支援するためのイメージソングとして、「ゆめちからのうた」を作成しました。歌詞は三番からなり、全体で1分半ほどの短い曲ですが、雪融けから夏、秋と季節に沿って流れていきます。

また、上記三つの特徴を歌に織り込み、病気に強いことを1番で「雪の下からたくましく」、中力小麦とのブレンド適性を2番で「穂波とゆれるゆめちから」、独特の食感を3番で「ふっくらとパンに変身」と表現しています。特に、2番の「穂波とゆれる」とは、麦穂が波のように揺れている情景と、これから北海道を代表する秋播きのめん用小麦になる「きたほなみ」と一緒に揺れているイメージを掛けており、共に大きく躍進して欲しいという期待を込めています。



帯広三条高校合唱部によるゆめちからのうたは、次のURLで聴くことができます。

URL <http://cryo.naro.affrc.go.jp/topics/yumechikara/song.html>

- 1 番：北海道の青い空 雪の下からたくましく
顔出す 緑のじゅうたん ゆめちから
- 2 番：北海道の大地から 夏風うけてハーモニー
ル… 穂波とゆれる ゆめちから
- 3 番：北海道の澄んだ空 実りの秋にふっくらと
おいしく パンに変身 ゆめちから
希望の小麦 ゆめちから

最後に、「ゆめちからのうた」を歌っていただいた北海道帯広三条高等学校合唱部の皆さん、歌の収録にご助力いただいた「むー音楽工房」の村田博之氏、作曲者の荒木七穂実氏に感謝の意を表します。特に、帯広三条高校合唱部は平成21年度第62回全日本合唱コンクール全国大会で金賞・文部科学大臣賞・カワイ奨励賞に輝いた実力校で、受賞後初の定期演奏会当日に、忙しいリハーサルの合間を縫ってご協力いただきました。また、音響効果を考慮し、わざわざ帯広市民文化ホール大ホールを使う演奏会当日に収録を設定していただいた、合唱部顧問の豊田端吾先生に、紙面を借りて心より御礼申し上げます。歌詞は英訳もされています。

一日も早く、消費者の皆様にご国産小麦から焼いたおいしいパンを食べていただきたいと思います。